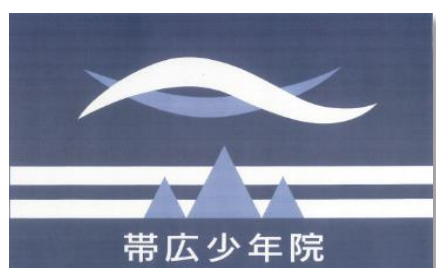


帯広少年院



帯広少年院の概要

所在地 : 北海道帯広市
 収容定員 : 96名
 少年院の種類 : 第1種少年院, 第2種少年院
 収容対象 : 主に札幌高等裁判所管内の家庭裁判所において少年院送致決定を受けたおおむね14歳以上の男子少年



帯広少年院

院旗

流線は十勝の風を、二本の白線は十勝平野を表しています。また、三角は日高山脈を表し、真ん中が少年、両脇を職員と外部協力者が支えていることを表しています。全体の青は、澄み切った空の青ではなく、在院生の複雑な心の内を示しています。

地域と連携した取組

【地域の方々に支えられて】

帯広少年院では、開設当初から長年にわたり音楽、絵画、書道、剣道等のクラブ活動等で**地域の協力者の方々に御指導**をいただいたり、体育祭や文化祭、生活意見発表会等の**行事などで地域の方々との交流**を深めたりしています。

【就労体験や社会見学】

在院者の出院後の円滑な社会復帰、再非行防止に資するため、地域の関係機関の協力をいただきながら就労体験や社会見学等を行っています。



就労体験

【職員の出前授業による社会貢献】

職員を近隣の学校へ派遣し薬物乱用防止教育の**出前授業**を行うなど、地域社会とのつながりを体感できる社会貢献活動に取り組んでいます。



非行防止出前授業

社会復帰に向けて

【出院時アンケートより】

<入院当時>は少年院生活は意味がない等として無為に過ごしていた者が、<少年院生活の中で>外部講師や教官の指導、各種行事や訓練をとおして、**自分の問題点に向き合い真摯な生活を送るようになり、** **出院後の更生を誓う**ようになり、少年院生活を良かったと捉える感想が多く見られます。

帯広少年院は、改善更生に向けて難しい事情を抱えた少年を教育する施設として長年培ったノウハウを生かした少年処遇を展開し、在院生の**社会復帰をサポート**しています。

沿革

昭和40年7月 開庁 初等・中等少年院
 昭和52年3月 中等・特別少年院に変更
 6月 生活指導課程施設に指定
 平成5年9月 生活訓練課程(G1),職業能力開発課程(V2)に指定
 平成9年10月 生活訓練課程(G3)追加
 平成24年4月 特殊教育課程(H1,H2)追加
 平成27年6月 新少年院法施行により、社会適応課程(A2,A4),支援教育課程(N1,N2,N4,N5)に指定
 7月 創立50周年



時間を告げるラッパ(開設当時)

施設の特徴

【矯正教育課程】

- ・ **社会適応課程** (健全な価値観を養ったり、堅実に生活する習慣を身に付けるための指導等)
- ・ **支援教育課程** (障害等その特性に応じた、社会生活に適應する生活態度・対人関係等を身に付けるための指導等)

【生活指導】

生活指導において、**非行や発達上の課題に応じた治療的教育や社会生活のスキルアップ**のための各種プログラムに力を入れています。

【職業指導】

職業指導において、陶芸科、農園芸科等の**実習**のほか、職業能力訓練センターとして、危険物取扱者、車両系建設機械及びフォークリフト技能講習等の**資格取得**のための訓練をしています。



セカンドステップ(対人スキル向上プログラム)



フォークリフト技能講習訓練

最近のトピック

在院生は、秋の一大イベントに精一杯取り組みました。

【マラソン大会】

令和2年10月30日に、**マラソン大会**を行いました。全長8キロメートルの周回コースを制限時間1時間以内で走るという設定のもと、**全員が完走**しました。



マラソン大会

【文化祭】

11月4日には、在院生のクラブ活動の発表会である**文化祭**を行いました。

例年は保護者のほか関係機関の方々にご来院いただいて**練習の成果を見ていただいている**ところ、本年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、保護者と篤志面接委員の先生のみのご臨席とさせていただきます。



文化祭

(写真は演劇発表の様子)